

別紙 1

論文審査の要旨

報告番号	甲 第 2674 号	氏 名	樋口 慧
論文審査担当者	主査 門倉 光隆 教授 副査 小風 暁 教授 副査 桑迫 勇登 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>病院あたり手術数の手術アウトカムへの影響 (volume-outcome relationship(VOR)) については、手術数が多い病院ほどアウトカムが良いという報告が多いものの、その関連性ははっきりしない。本研究では、日本のDPCデータベースを用いて、大腸癌切除術に関して病院あたり手術数と在院死亡率、術後在院日数との相関を検証した。2007年、2008年の7月から12月までに大腸癌切除術を施行した患者51,878人を、病院あたり手術数の少ない順にL群、M-l群、M-h群、H群の4群に分類し、各群の患者数がほぼ同数となるよう手術数のカットラインを設定した。統計はχ^2検定、分散分析、ロジスティック回帰分析・Cox比例ハザードモデルを用いた。患者要因・術式を調整してVORを見ると、L群と比較した場合、手術が多くなる順に在院死亡のオッズ比は低くなった (Odds Ratio 0.87, 0.73, 0.53)。術後在院日数は、L群と比較するといずれの群も有意差を認めた ($p < 0.001$)。DPCデータを用いた本研究では、大腸癌切除術において病院あたり手術数が多いほど、有意に低い在院死亡率、短い術後在院日数が認められた。</p> <p>本研究は新しい知見を得ており、学術上価値があり、学位に値するものと判断した。</p> <p>論文題名：本邦の大腸癌手術における volume-outcome relationship の検討</p> <p>掲載雑誌名：昭和医学会誌 第 75 巻 第 3 号 2015 年 掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)